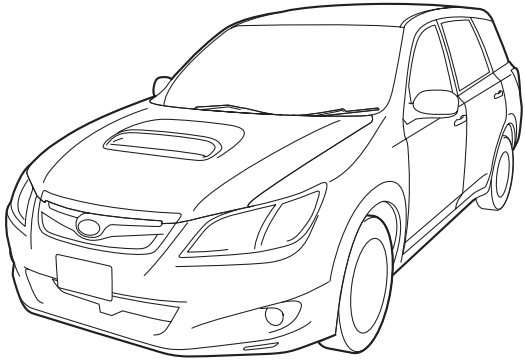
このたびは「エクシーガ」を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は「EyeSight（アイサイト）」の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

EyeSightは運転者への事故被害や運転負荷を軽減するためのシステムです。
運転するときは常に周囲の状況に気をつけて、安全運転を心がけてください。



- 交通ルール・マナーを守り運転しましょう。
- 「EyeSight（アイサイト）」以外の取り扱いについては、別冊の取扱説明書を併せてお読みください。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますので
ご了承ください。

EXIGA YA4-015001～017999,
YA5-023001～026999, YA9-008001～009999

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや車体が損傷する可能性があることを回避法とともに示しています。

⚠ 警告	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。

⚠ 注意	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。

その他の表示

アドバイス	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと

EyeSight（アイサイト）

EyeSightについて……2
全車速追従機能付クルーズコントロール …… 12
プリクラッシュブレーキ …… 29
AT誤発進抑制制御 …… 34
車線逸脱警報 …… 37
ふらつき警報 …… 39
先行車発進お知らせ …… 41
ブザー音一覧 …… 42
警告画面表示一覧 …… 43
定速クルーズコントロール …… 44
故障と思う前に …… 52
さくいん …… さくいん-1

EyeSightについて

EyeSight（アイサイト）

EyeSightはさまざまな機能によって、ドライバーの判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。スバル独自のステレオカメラを用いたEyeSightは、2台のCCDカメラでのステレオ画像処理技術を駆使し、先行車・車線・ガードレールなどの前方道路環境を認識するセンサーおよびコントローラーです。

⚠ 警 告

ドライバーには通常の安全運転の義務があります。運転時は常に先行車との車間距離や、周囲の状況、運転環境に注意して必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。

EyeSightだけに頼った運転は、絶対に行わないでください。

EyeSightは、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。

わき見運転やぼんやり運転などドライバーの前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。

また、衝突を回避するものではありません。

EyeSightの認識性能・制御性能には限界があります。全車速追従機能付クルーズコントロール、プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御、定速クルーズコントロールの警告を必ず参照の上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。プリクラッシュブレーキ機能を OFF にしてください。また、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※
  - 応急用スペアタイヤを装着しているとき※
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※
  - サスペンションを改造したとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯が点灯しているとき
  - 重い荷物を積んで車が傾いているとき
  - 定員を超えているとき

※ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
詳細は「エクシーガ取扱説明書」を参照ください。

EXIGA YA4-015001～017999,
YA5-023001～026999, YA9-008001～009999

アドバイス

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方の車両や障害物、車線を認識しづらくなります。
- 以下の状況では先行車、二輪車、歩行者、路上の障害物を認識しづらくなり、EyeSight が一時停止状態になる場合があります。この場合、状況が改善されれば再び機能は動作します。
  - 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など。特にフロントガラスに油膜が付着したり、ガラスコーティング剤を使用したり、古いワイパーをお使いになった時に、一時停止しやすくなります。）
  - 前方から強い光(逆光やヘッドランプのハイビーム光など)を受けたとき
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜が付着し、ステレオカメラの視界を遮っているとき
  - 炎天下で放置した後など車内の温度が高いとき、または極寒の環境で放置した後など車内の温度が低いとき
  - エンジンの始動直後
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 先行車や対向車両の水や雪などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が充分でないとき
  - トンネルの出入り口を通過するとき
  - 前方車両の最後面が小さい（例えばトレーラーなど)、低い、または凹凸があるとき
  - フェンス、縦縞模様の壁、模様がまったくない壁がある場合
  - ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
  - 雨滴やウインドゥウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
  - 夜間またはトンネル内で、先行車のテールランプが点灯していないとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどを通過するとき
  - 急な上り坂、急な下り坂の場合
  - カメラの前を手でふさぐなどした場合
  - 真っ暗で周囲に物がない場合
  - 周囲が一面雪で、物がない場合

次ページへ ⇒

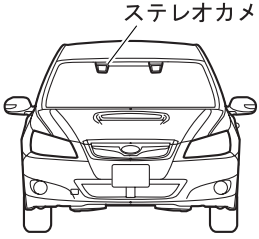
⇒前ページより

- EyeSight は、プリクラッシュ 2 次ブレーキが作動したときに下記のデータを記録・蓄積します。会話などの音声は記録しません。
  - ー ステレオカメラの画像情報
  - ー 先行車との車間距離
  - ー 車速
  - ー ハンドルの操舵角
  - ー 進行方向に対しての横方向の動き
  - ー アクセルペダルの操作状況
  - ー ブレーキペダルの操作状況
  - ー セレクトレバーの位置
  - ー ABS、VDCおよびTCSの制御に関する情報

  スバルおよびスバルが委託した第三者は、記録されたデータを、車の研究開発目的に取得・流用することがあります。なお、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
  - ・お車の所有者の同意がある場合
  - ・裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
  - ・統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

ステレオカメラについて

ステレオカメラは天井のスポットライト部分に装着されています。



S00408

⚠ 注 意

- ステレオカメラ前面の汚れを自動で判定する機能を備えておりますが、万全ではありません。
  状況によっては、ステレオカメラ前面の汚れを判定できない場合があります。また、フロントガラスのステレオカメラ付近に雪や氷などが付着したときも、判定できない場合があります。このような状況では、車間距離が適切に保てない場合がありますので、常に前方に注意して走行してください。また、フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。なお、汚れを判定した場合は、プリクラッシュブレーキおよび全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます。
- ステレオカメラのレンズ部は精密部品です。取り扱いについては、下記の注意事項を守ってください。
  - ステレオカメラのレンズ部には絶対に触れないでください。また、レンズ部は清掃しないでください。
    万一、レンズ部に触ってしまった場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。
  - フロントガラスを清掃するとき、ステレオカメラのレンズ部にガラスクリーナーなどが付着しないように注意してください。
- ステレオカメラに強い衝撃や力を加えないでください。
- ステレオカメラを取り外したり、分解しないでください。
- ステレオカメラの取り付け位置を変更したり、周辺構造物の改造をしないでください。
- フロントガラス（外側、内側）は常にきれいな状態に保ってください。
- フロントガラス（外側、内側）にステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けないでください。
- フロントガラスにガラスコーティング剤などを使用しないでください。システムが正常に作動しない場合があります。
- ワイパーブレードは早めに交換してください。（拭き残しにより、障害物を認識しにくくなる場合があります）
- スバル純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）を装着しないでください。ステレオカメラの視野に影響し、機能が正常に動作しない可能性があります。
- スバル純正品以外のワイパーブレードを装着しないでください。ステレオカメラの視野に影響し、機能が正常に動作しない可能性があります。
- インストルメントパネル上に物を置かないでください。フロントガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが正常に作動しない場合があります。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- フロントガラスを交換・修理する場合は、スバル販売店にご相談ください。

EyeSightの機能について

EyeSightには、次の7つの機能があります。

■全車速追従機能付クルーズコントロール

クルーズコントロールをセットした場合、同一車線内に先行車がいないときにはセットしたときの車速で定速走行をします。同一車線内に、セットした車速より低速の先行車を認識したときには、適切な車間距離を保ち追従走行します。自車と先行車との車速に応じて車間距離を制御します。

☆12ページ参照

■プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物に衝突する可能性があるとき、車間距離警報により、ドライバーの回避操作を促します。それでもドライバーの回避操作がない場合、自動的にブレーキをかけ衝突被害を軽減します。

☆29ページ参照

■AT誤発進抑制制御

ギヤの入れ間違いやペダルの踏み間違いによる誤った前進を抑制します。

☆34ページ参照

■車線逸脱警報

走行中、車線を逸脱しそうになると、注意を促します。

☆37ページ参照

■ふらつき警報

疲れやよそ見、ぼんやり運転、横風などによるふらつきを検知し、注意を促します。

☆39ページ参照

■先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が発進しない場合にお知らせします。

☆41ページ参照

■定速クルーズコントロール

一定速度をキープして走行するモードです。追従走行は行いません。ステレオカメラが一時停止状態（43ページ参照）でも使用することができます。（この機能は全車速追従機能付クルーズコントロールから切り替えて使用します。）

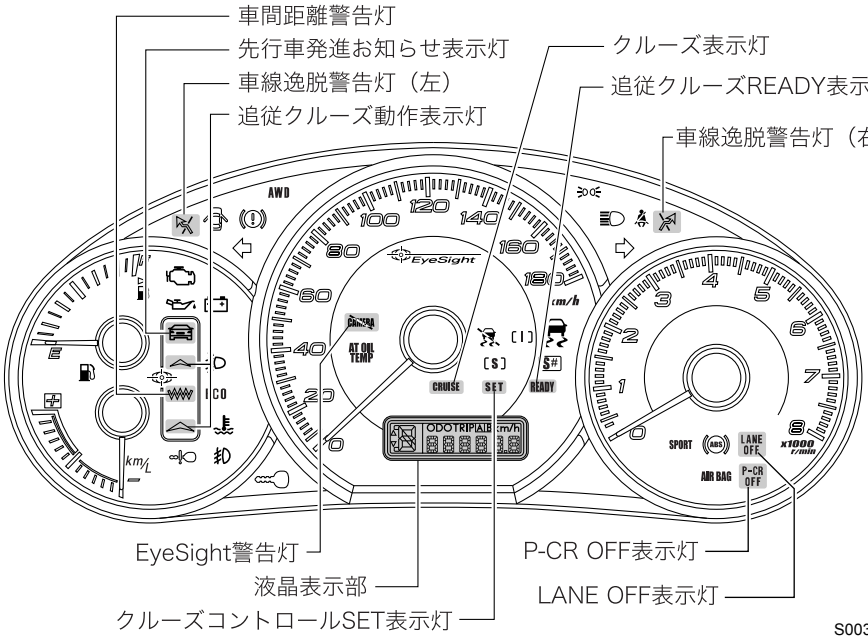
☆44ページ参照

アドバイス

EyeSightはエンジンがかかっていないとき、作動しません。

メーター表示構成

■表示灯・警告灯



●クルーズ表示灯［全車速追従機能付/定速クルーズコントロール共通］

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをONにすると点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

⚠ 注 意

- 走行中にこの表示灯の点滅とエンジン警告灯の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- エンジンなどに異常がある場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールはONにできません。

アドバイス

CRUISE（クルーズ）スイッチを押しながらエンジンを始動させると、クルーズ表示灯が点滅します。この場合、一旦エンジンスイッチをOFFにしてCRUISE（クルーズ）スイッチに触れずに再度エンジンを始動させてください。

●クルーズコントロールSET表示灯［全車速追従機能付/定速クルーズコントロール共通］
- クルーズコントロールをセットすると表示灯が点灯します。

●追従クルーズREADY表示灯
- 全車速追従機能付クルーズコントロールがセット可能なとき点灯します。

●追従クルーズ動作表示灯［全車速追従機能付クルーズコントロール使用時］
- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットすると下側の表示灯が点滅します。
- 先行車を認識すると上側の表示灯が点滅し、下側の表示灯が点灯に切り替わります。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

●車間距離警告灯
- 下記の場合に車間距離警告灯が点滅します。
  - 車間距離警報作動時
  - ブレーキ踏み増し要求警報作動時
  - プリクラッシュブレーキ作動時
  - AT誤発進抑制制御作動時
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

●LANE OFF表示灯
- 車線逸脱警報およびふらつき警報がOFFのとき点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。

●P-CR OFF表示灯
- プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御がOFFのときに点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。

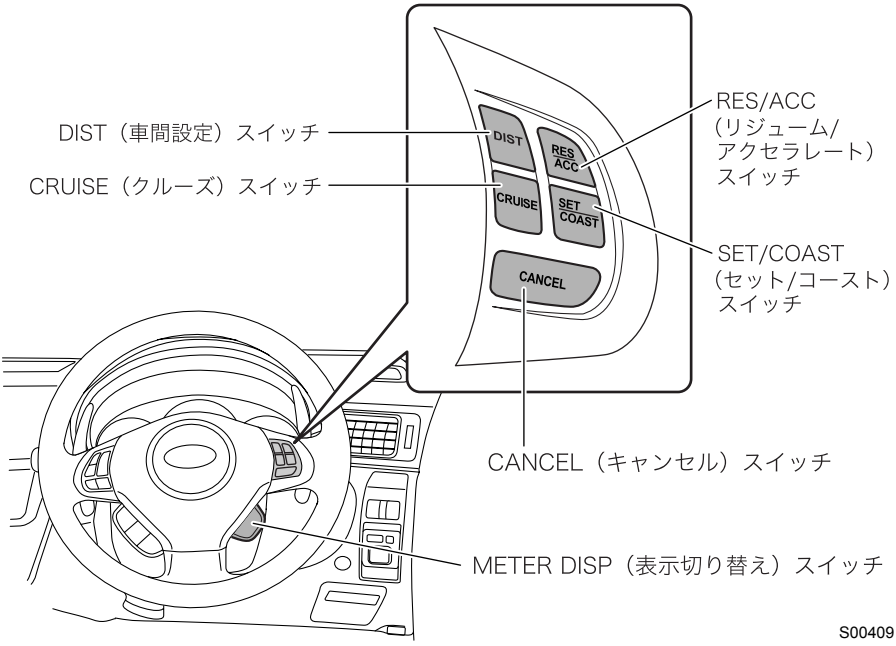
●EyeSight警告灯
- EyeSightが故障したときに点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

●車線逸脱警告灯
- 車線逸脱警報が作動したとき点滅します。
- 左側に逸脱しそうになったときは左の警告灯が、右側に逸脱しそうになったときは右の警告灯がそれぞれ点滅します。
- ふらつき警報が作動したとき、左右の警告灯が同時に点滅します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

●先行車発進お知らせ表示灯
- 先行車発進お知らせが作動したとき点滅します。

スイッチ構成

■ステアリングスイッチ［全車速追従機能付/定速クルーズコントロール］



●CRUISE（クルーズ）スイッチ

- クルーズコントロール※のON･OFFができます。

●SET/COAST（セット/コースト）スイッチ

- クルーズコントロール※のセットができます。
- セット車速を下げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）
- 自車を減速させることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき長押し）

●RES/ACC（リジューム/アクセラレート）スイッチ

- クルーズコントロール※を解除後、解除前のセット車速に再びセットすることができます。
- セット車速を上げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）
- 自車を加速させることができます。（クルーズコントロール※がセット中の長押し、ただし先行車に追従走行を行っている場合は除く）

●CANCEL（キャンセル）スイッチ

- クルーズコントロール※のセット状態を解除できます。

※全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

●DIST（車間設定）スイッチ

- 車間距離の設定を「長」「中」「短」の３段階に切り替えることができます。（全車速追従機能付クルーズコントロールのみ）
- 約 2 秒以上長押しすることで全車速追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

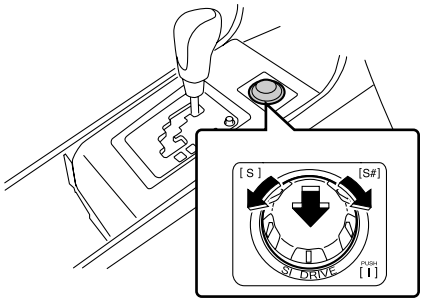
●METER DISP（表示切り替え）スイッチ

液晶表示を全車速追従機能付クルーズコントロールの表示からオド／トリップ表示に切り替えることができます。約3秒後に全車速追従機能付クルーズコントロールの表示に戻ります。

■SI-DRIVE※セレクター

SI-DRIVE に連動した追従特性の切り替えを行います。（全車速追従機能付クルーズコントロールのみ）

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。



301309

●SI-DRIVE※との協調制御

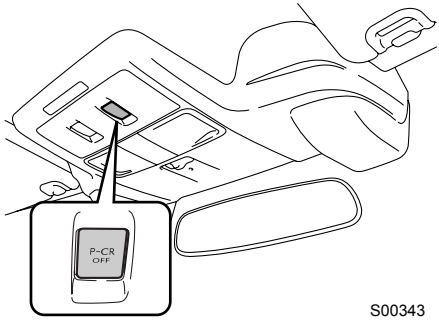
SI-DRIVEのモード切り替えにより、全車速追従機能付クルーズコントロールの特性を変えることができます。

I（インテリジェントモード）選択時	穏やかな動きの追従走行を行います。
S（スポーツモード）選択時	先行車への追従性能を重視した、メリハリのある追従走行を行います。
S#（スポーツシャープモード）選択時	S（スポーツモード）同等の追従走行を行います。ドライバーによるアクセル操作時は、S#（スポーツシャープ）のレスポンスが得られます。

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。

■P-CR OFFスイッチ

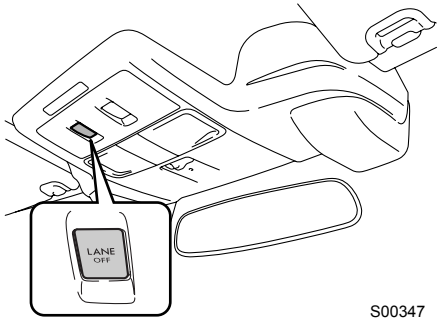
約2秒以上長押しすることで、プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御をOFFにできます。
OFFにするとメーター内のP-CR OFF表示灯が点灯します。
再度スイッチを長押しすると、プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御がONになり、P-CR OFF表示灯が消灯します。
☆33ページ参照



S00343

■LANE OFFスイッチ

約2秒以上長押しすることで、車線逸脱警報およびふらつき警報をOFFにできます。
OFFにするとメーター内のLANE OFF表示灯が点灯します。
再度スイッチを長押しすると、車線逸脱警報およびふらつき警報がONになり、LANE OFF表示灯が消灯します。
☆38ページ参照



S00347

全車速追従機能付クルーズコントロール

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。前方の自車線上の先行車をステレオカメラにより認識し、運転者が設定した車速を上限として車速に応じた車間距離を自動的に保ちながら追従走行を行います。

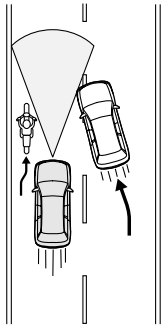
⚠ 警 告

- あらゆる走行状況を判断して自動的に運転する装置ではありません。
- 全車速追従機能付クルーズコントロール機能を過信しないでください。わき見運転やぼんやり運転など、ドライバーの前方不注意や視界不良での運転操作を補助する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。
  運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして車間距離を保ち、安全運転に努めてください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - 一般道（自動車専用道路以外）
    道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
  - 急カーブがある道
  - 凍結路や積雪路など滑り易い路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
    交通環境に沿った走行ができない場合があります。
  - 急な下り坂
    エンジンブレーキが効かないため、セットした車速を超えてしまう場合があります。このとき自動ブレーキは作動しません。
  - 急な下り坂で先行車を認識していて、追従走行している場合
    ブレーキが過熱するおそれがあります。
  - 急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
    先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
  - インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリア、ジャンクション、料金所などに進入するとき
    先行車を認識できない場合があります。
  - トンネルの出入り口など、明るさが急に変化するとき
  - 先行車や対向車が巻き上げた水や雪、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
    先行車を認識できなかったり、水などを認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
  - ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
    先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。

- 次に挙げる物体は、ステレオカメラでの認識が困難な場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。
  - 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）
  - 割り込み車両
  - 道路脇を走行中の二輪車
  - 歩行者、動物
  - 夕方、朝方など
  - 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
  - 前方車両がトレーラーなど、後面が極端に小さいまたは凹凸があるとき
  - 自車バンパーの極めて近い位置に物体があるとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ずクルーズスイッチをOFFにしてください。スイッチをONにした場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を充分確認してください。また、車外からの操作は絶対にしないでください。

ステレオカメラによる先行車の認識について

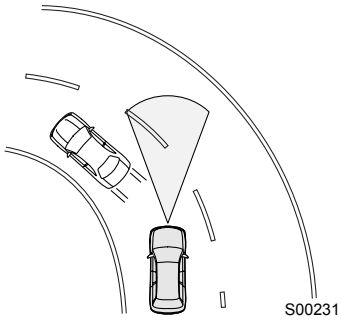
- 次のような道路形状や、自車の状況によっては、先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキを踏むなどしてください。
  - 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき



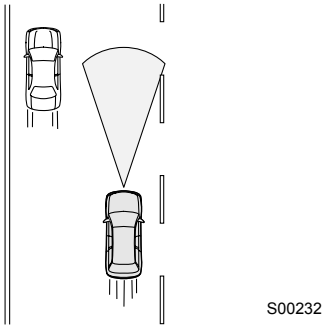
次ページへ ⇒

⇒前ページより

－ カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路（認識エリアから外れて認識できない場合があります）



－ 先行車との位置が横にずれているとき



－ 先行車との速度差が大きいとき
－ 前方に車両が割り込んできたとき
－ 極端に車間距離が狭いとき
－ 自車が車線内で蛇行しているとき
－ 凹凸のある道路を走行しているとき
－ 車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
－ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
－ 自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

- 全車速追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。先行車を認識していても速度差が大きい場合や急減速した場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキを踏んで減速してください。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用してください。

☆別冊のメンテナンスノート参照

- ブザー音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- 短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。
  - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
  - 先行車が急減速したとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返されるとき

⚠ 注 意

- 追従走行開始後は、先行車の動きに合わせて停止付近まで制御を続け、停止間際に自動で追従走行を解除するとともにクルマが停止します。ただし、次のような場合は、停止しないことがあります。ブレーキペダルを踏み車間距離を保ってください。
  - 先行車を見失ったとき
  - 下り坂や、路面の勾配が変化したとき
  - エンジン起動直後～走り出してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
  - 寒いとき
  - 雨の日
  - 連続してブレーキを使用した場合
  - 先行車がごくゆっくり停止した場合
- 本機能は、停止状態を保持しません。停止後、ゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。必ずブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。（状況により停止しない場合もあります。）
  また、停車状態からの自動発進は行いません。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールは自動ブレーキを行いますが、先行車が急に減速したときや強い減速をしたとき、また、自車の前に他の車両が割り込んできた場合など充分な減速ができない場合があります。ブレーキペダルを踏み車間距離を保ってください。
- 下り坂ではエンジンブレーキが効かないため、セットした車速を超えてしまう場合があります。このような場合自動ブレーキは作動しません。
- 自動ブレーキ作動時は、ブレーキペダルが奥に引き込まれ、自動ブレーキ終了後は、ブレーキペダルは元の位置に戻ります。このとき、足があたると、元の位置まで戻らずに全車速追従機能付クルーズコントロールがキャンセルされます。

全車速追従機能付クルーズコントロールの機能

設定した車速で一定速走行します。先行車がいる場合は、車間距離を保って追従走行を行います。自車速が 0 km/h ～100 km/h のときに設定することができます。

設定できる車速：

40 km/h ～100 km/h

全車速追従機能付クルーズコントロールが制御できる速度の範囲：

約 2 km/h ～100 km/h

☆17ページ参照

■ブレーキ踏み増し要求警報

全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ制御では減速しきれないと判断した場合に、ブザー音と表示でお知らせします。

☆27ページ参照

アドバイス

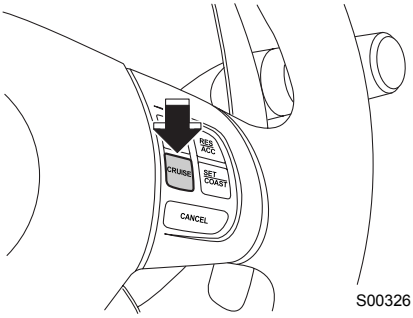
- 前方約90 m以内の自車線上の先行車をステレオカメラによって認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールでは、SI-DRIVEのモードを変更することにより各モードの特徴を生かした追従走行をすることができます。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときや、アクセラレート操作中のときであっても、加速しない場合があるほか、減速する場合もあります。
- ステレオカメラが一時停止した場合、全車速追従機能付クルーズコントロールは解除されます。
- エンジンを止めると全車速追従機能付クルーズコントロールは自動的にOFFになります。
- CRUISEスイッチを押してもクルーズ表示灯が点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

全車速追従機能付クルーズコントロールの使用方法

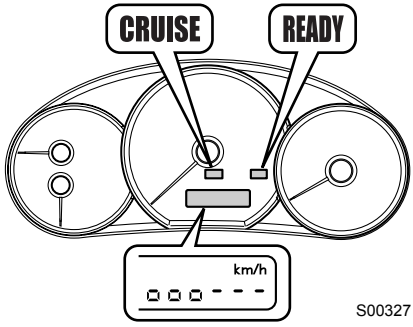
以下の条件のときにセットできます。
- セレクトレバーがDのとき
- ブレーキペダルを離しているとき
- 自車速が0 km/h～100 km/hのとき
- VDCをOFFしていないとき
- ステレオカメラが一時停止中でないとき

■全車速追従機能付クルーズコントロールをスタンバイさせる

CRUISE（クルーズ）スイッチを押します。このとき、メーター内にクルーズ表示灯が点灯し、液晶表示部に“車間設定”が表示されます。さらに、セット可能な状況になると“READY”が表示されます。



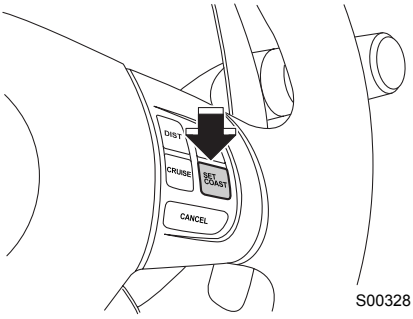
S00326



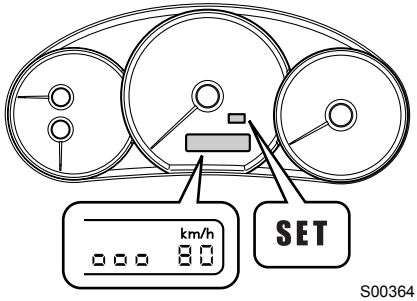
S00327

■全車速追従機能付クルーズコントロールをセットする

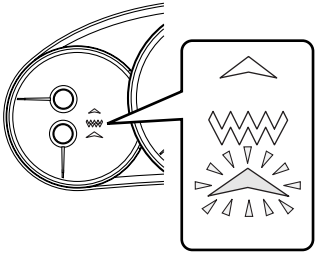
SET/COAST（セット/コースト）スイッチを押します。
全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御を開始します。
メーター内のクルーズコントロールSET表示灯が点灯します。
先行車を認識していないときは、メーター内の追従クルーズ動作表示灯の下側（表示灯）が点滅して、セット車速で定速走行します。



S00328

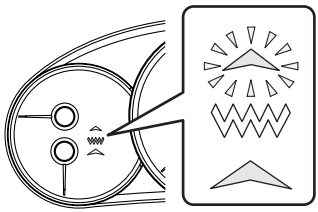


S00364


S00351

先行車を認識すると、“ピッ”と鳴ると同時にメーター内の追従クルーズ動作表示灯の上側（表示灯）が点滅し、下側（表示灯）が点灯に切り替わります。
先行車に合わせ、一定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限となります。

追従走行開始後は、先行車の動きに合わせて自車の停止付近まで制御を続け、停止間際（約2 km/h）に自動で全車速追従機能付クルーズコントロールを解除するとともにクルマが停止します。このとき、ブザー音と共に自動ブレーキが解除されてクリープ走行を開始しますので，必要に応じてブレーキペダルを踏んで車両を停止させます。

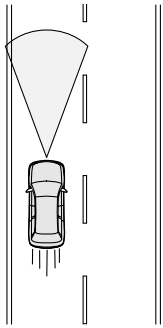


S00352

●全車速追従機能付クルーズコントロールの作動

▼先行車がいない場合

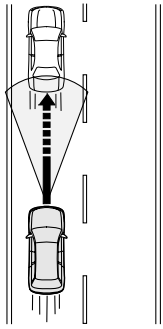
セット車速（40 km/h ～100 km/h）で定速走行します。



S00139

▼先行車がいる場合

セット車速（約40 km/h～100 km/h）を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。

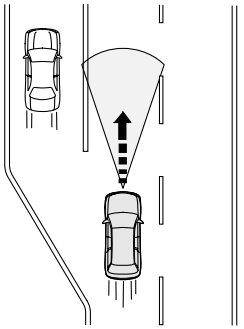


S00140

追従走行開始後は先行車の動きに合わせて制御を続け、停止間際（約2 km/h）に自動で追従走行を解除します。自動ブレーキが解除されてクリープ走行を開始しますので、必要に応じてブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

▼先行車がいなくなった場合

先行車を認識しなくなったときは、セット車速までゆっくりと加速し、定速走行を行います。



S00142

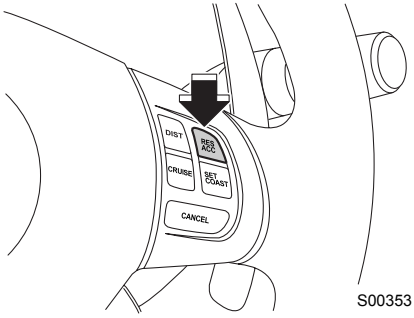
アドバイス

- セット車速は40 km/h～100 km/hの範囲内で設定でき、セット車速を上限として追従走行します。
  自車速が40 km/h以下のときにセットした場合、セット車速は40 km/hに設定されます。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、ブレーキペダルが動き制動灯が点灯します。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したあと、ブレーキペダルが戻るときに音がすることがありますが異常ではありません。
- セレクトレバーがD以外のときはセットできません。
- マニュアルモードを選択している場合はセットできません。
- VDCをOFFにしているときはセットできません。
- セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び車間距離を保ち追従走行を行います。
- 素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 停車中にブレーキペダルを離してから約5秒以上たつと、セットできなくなります。この場合は、ブレーキペダルまたはアクセルペダルを踏んでからセットしてください。

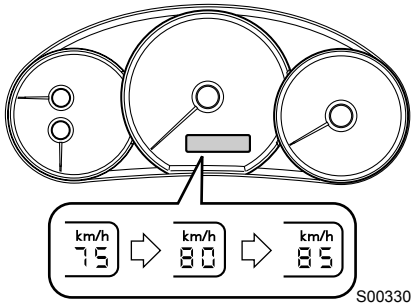
■セット車速を変える

●セット車速を上げたいとき

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中に、RES/ACC（リジューム/アクセラレート）スイッチを押すと、セット車速が5 km/hきざみで上がります。液晶表示部にセット車速が表示されます。



S00353

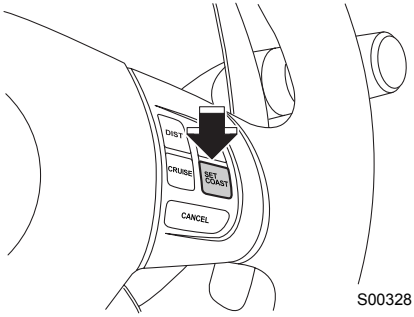


S00330

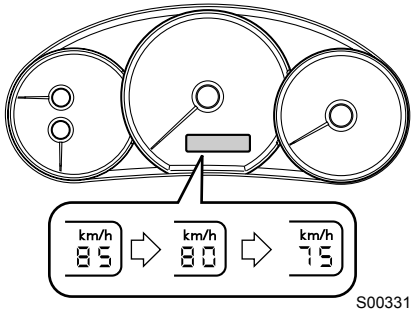
- 先行車がいない場合にRES/ACC（リジューム/アクセラレート）スイッチを長く押すと、押している間だけ加速します。このあと、スイッチを離したときの車速で再セットされます。

●セット車速を下げたいとき

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中に、SET/COAST（セット/コースト）スイッチを押すと、セット車速が5 km/hきざみで下がります。
  液晶表示部にセット車速が表示されます。



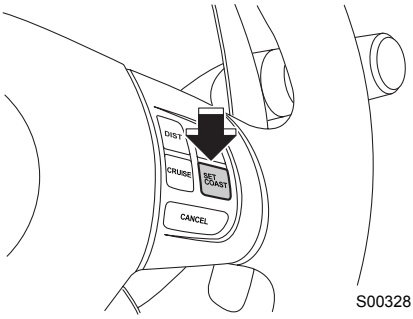
S00328



S00331

- SET/COAST（セット/コースト）スイッチを長く押すと、押している間だけ減速します。このあと、スイッチを離したときの車速で再セットされます。

- ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
  （全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。）
  希望の速度になったらSET/COAST（セット/コースト）スイッチを押します。



S00328

■一時的に加速する

アクセルペダルを踏むと、加速します。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

■減速する

ブレーキを踏むと、減速します。
そのとき、メーター内のクルーズコントロールSET表示灯が消灯し、全車速追従機能付クルーズコントロールは解除されます。
液晶表示部のセット車速はそのまま表示され、セット待機状態になります。

アドバイス

- 追従制御しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、RES/ACC（リジューム/アクセラレート）スイッチを押して、先行車の速度以上にセット車速を上げても加速しません。
  このときセット車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。セット車速は液晶表示部のセット車速表示を確認しながら変更してください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを設定中でアクセルペダルを踏んでいるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールによる自動ブレーキも警報も行いません。ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、プリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。
- 通常、追従制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

■車間設定を変える

先行車との車間距離を選ぶことができます。

- DIST（車間設定）スイッチを押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」… の順に切り替わります。

車間設定	ディスプレイ
長	
中	
短	

S00334

アドバイス

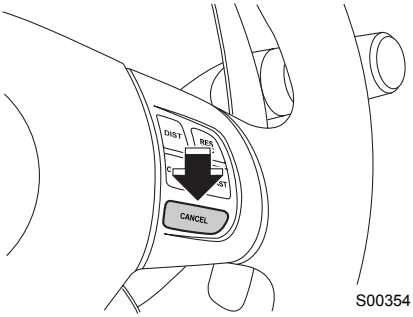
- クルーズスイッチをOFFにしたり、エンジンをかけるたびに、車間設定は「長」の設定となります。
  再び車間設定を変えるときは、DIST（車間設定）スイッチを押してください。
- 車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。
- 車速100 km/hで走行しているとき、車間設定での車間距離の目安は次の通りです。
  長：約50 m
  中：約40 m
  短：約30 m
- 車速 40 km/h で走行しているとき、車間設定での車間距離の目安は次の通りです。
  長：約25 m
  中：約20 m
  短：約15 m

■全車速追従機能付クルーズコントロールを解除する

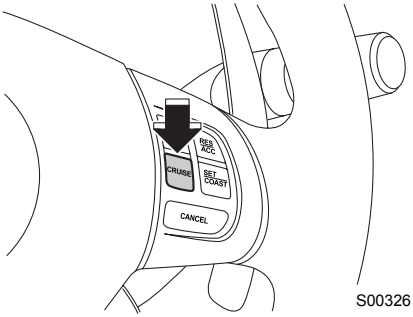
●ドライバー操作による解除方法

次のいずれかの操作で全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。

- CANCEL（キャンセル）スイッチを押す。
- CRUISE（クルーズ）スイッチを押す。
- ブレーキペダルを踏む。



S00354



S00326

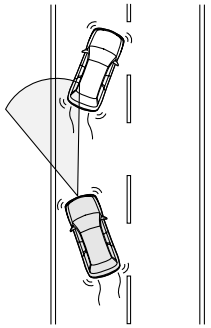
アドバイス

自車速が40 km/h以下で先行車を捕捉していない場合、SET/COAST（セット/コースト）スイッチを長押しすると、クルーズコントロールが解除されます。

●システムによる自動解除

走行中、“ピー”というブザー音とともに全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されることがあります。クルーズコントロールSET表示灯が消灯するとともに、解除される条件に合わせて表示を行います。

▼条件1


S00200

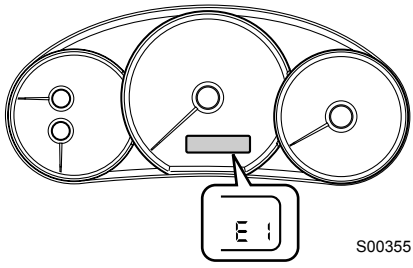
- ABS、VDCまたはTCSが作動したとき。
- タイヤが空転したとき。
- セット中に自車速が約140 km/hを超えたとき。
- セット中に自車速が約 2 km/h を下回ったとき。
- セレクトレバーを D 以外にしたとき。
- ATをマニュアルモードにしたとき。
  D レンジに戻すことにより再度使用することができます。
- D レンジで走行中パドルシフトを操作したとき。
  シフト表示が D に戻ると再度使用することができます。
- VDCをOFFにしたとき。
  VDCをONに戻すことにより再度使用することができます。
- ステレオカメラが一時停止状態のとき。

☆詳しくは43ページの「警告画面表示一覧」をご覧ください。

▼条件2

次の場合は“ピー”というブザー音とともにステレオカメラが一時停止状態となります。メーター内のP-CR OFF表示灯およびLANE OFF表示灯が点灯し、液晶表示部には“E1”と表示されます。全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしている場合は自動で解除されます。

- フロントガラスが汚れている、あるいは曇っているとき
- 前方から強い光(太陽光など)を受けたとき。
  強い光があたらない状況になると、一時停止から復帰します。
- 豪雨、豪雪、濃霧などの悪天候時



S00355

▼条件3

次の場合は、メーター内のP-CR OFF表示灯およびLANE OFF表示灯が点灯し、液晶表示部に“E4”と表示されます。

- ステレオカメラの軸がずれ、先行車の認識が困難になったとき

☆詳しくは43ページの「警告画面表示一覧」をご覧ください。

▼条件4

次の場合は、メーター内のP-CR OFF表示灯、LANE OFF表示灯、EyeSight警告灯が点灯し、液晶表示部にはオド／トリップが表示されます。

- EyeSightに異常があるとき

☆詳しくは43ページの「警告画面表示一覧」をご覧ください。

⚠ 警 告

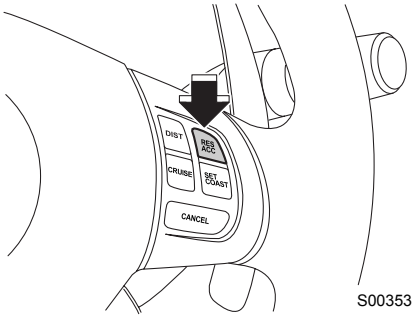
凍結路や積雪路など滑りやすい路面では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

アドバイス

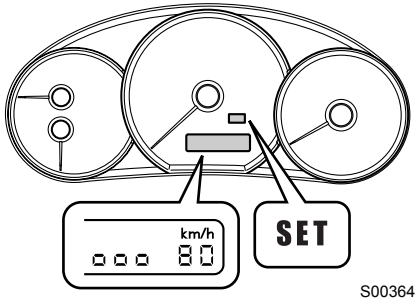
- EyeSight 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車して、一度エンジンを止めてから、再びエンジンを始動してください。この操作をしても、表示が点灯し続けるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの異常が考えられますので、全車速追従機能付クルーズコントロールは使用できません。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときの状態が解消されてから、再びセット操作を行ってください。状態が解消されても表示が点灯し続けるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

■メモリーされている車速に再びセットする

前回のセット車速がメモリーされていますので、その車速に再びセットしたいときは、RES/ACC（リジューム/アクセラレート）スイッチを押します。
（セット車速がメモリーされている場合は、液晶表示部にセット車速が表示されます。）



S00353



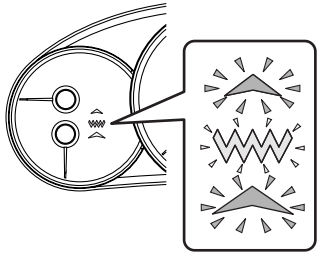
S00364

■ブレーキ踏み増し要求警報

ブレーキ制御による減速では不充分と判断した場合に、ブザー音と表示でお知らせします。

ブレーキ踏み増し要求警報は全車速追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不充分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。

- この機能が作動すると、メーターの車間距離警告灯および追従クルーズ動作表示灯が点滅（「 」と「 」が交互に点滅）し、ブザーが“ピピピ…”と鳴ります。
- この機能が作動した場合は、必要に応じてブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。



S00325

⚠ 警 告

- ブザー音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
- 次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。
  - アクセルペダルを踏んでいるとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。
  - 先行車との速度差が小さいとき
  - 先行車の方が自車より速いとき
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
  - 先行車が急減速したとき
  - 急な上り坂、下り坂のとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や、自車速より極端に車速が遅い車両は認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

プリクラッシュブレーキ

前方障害物に衝突する可能性がある場合、運転者への警報による衝突回避の支援を行います。それでも運転者の衝突回避操作がない場合、衝突の直前に自動的に急ブレーキをかけ、衝突被害を軽減します。
これらの機能は、フルラップ（正面）衝突だけでなくオフセット（右または左）衝突にも対応しています。セレクトレバーがD、Nまたはマニュアルモードで作動します。

⚠ 警 告

- 運転者の操作なしで追突を回避することはできません。常に先行車や障害物との距離、周囲の状況や運転環境に注意して、必要に応じてブレーキペダルを踏むなど安全運転に努めてください。
- EyeSight のプリクラッシュブレーキ機能は、衝突の被害を軽減することを目的として設計しています。プリクラッシュブレーキ機能は衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますので、その効果は様々な条件（※）により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。
- アクセルペダルを踏んだままプリクラッシュブレーキが作動したとき、ブレーキの効きが悪くなり本来の性能を発揮できない場合があります。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。
- 他の車両が急に割り込んだ場合や、視界、路面などの条件（※）の違いにより、作動しないこともあります。

※条件

- 前方車両との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、カーブの形状、凹凸、車線の有無など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が小さいとき（小動物、幼児など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 車両の使用状態・整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- ステレオカメラの認識状態

次ページへ ⇒

⇒前ページより

特に次の場合は作動しない可能性が高くなります。
- ・悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
- ・先行車や対向車両の水や雪などの巻き上げや、砂や煙が舞い、視界が充分でないとき
- ・夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- ・夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- ・夜間の二輪車、自転車、歩行者に対する接近
- ・夕方、朝方の薄暗いとき
- ・前方車両の最後面が小さい（例えばトレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）
- ・先行車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- ・自車バンパーの極めて近い位置に車、二輪車、自転車、歩行者が存在したり、それらに非常に小さい速度差で接近するとき
- ・車、二輪車、自転車、歩行者が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- ・自車が車線変更を行い、先行車のすぐ後ろに接近したとき
- ・前方から強い光（逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき
- ・フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜が付着しているとき
- ・ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
- ・雨滴やウインドゥウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ・ヘッドランプ照射範囲外に車、二輪車、自転車、歩行者が存在するとき
- ・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ・トンネルの出入り口を通過するとき
- ・フェンス、縦縞模様の壁、模様が全くない壁があるとき

⚠ 注 意

- 次のような場合は、必ずプリクラッシュブレーキをOFFにしてください。プリクラッシュブレーキが予期しない作動をする可能性があります。
  - けん引されるとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
  - リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
  - サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 次のような場合は、プリクラッシュブレーキが作動することがありますので安全運転に努めてください。
  - ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
  - 前車に接近して走行するとき
  - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
  - 水蒸気や煙のかたまりを通過するとき
  - カーブや交差点に障害物があるとき

プリクラッシュブレーキによる停止後、約２秒でゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。必ずブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

アドバイス

- P-CR　OFF 表示灯が点灯しているときはプリクラッシュブレーキは作動しません。P-CR OFF表示灯が点灯する主な条件は、次のような場合です。
  - P-CR OFFスイッチを約2秒以上長押ししたとき
  - VDC OFFスイッチを押してVDCを作動停止状態にしたとき
  - エンジン始動後の約7秒間
  - EyeSightが故障したとき※
  - EyeSightが一時停止したとき※

  ※52ページ参照
- 自動ブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。
- 自動ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

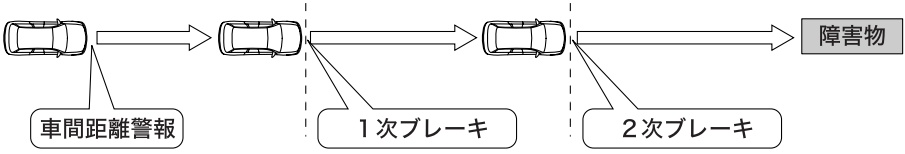
プリクラッシュブレーキの作動

走行中、前方に障害物があるとき、以下の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。ブレーキ制御中はブレーキペダルが作動し、制動灯も点灯します。

車間距離警報：
先行車の接近を検知した場合に、“ピピピ…”というブザー音とメーター内の表示で注意を促します。
車間距離警報は全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていないときに作動します。
ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離をとると解除されます。

1次ブレーキ：
走行時に前方障害物に衝突する可能性があると判断した場合、“ピピピ…”というブザー音とメーター内の表示で注意を促し、ブレーキ制御を行います。運転者が衝突回避操作などにより、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動が解除されます。

2次ブレーキ：
さらに衝突する可能性が高まったと判断した場合、“ピー”というブザー音に変わり、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。その後、運転者による衝突回避操作の有無にかかわらず、衝突が回避できないと判断した場合、ブレーキ制御を継続します。



作動システム	自動ブレーキの強さ	追従クルーズ動作表示および車間距離警告灯の点灯	ブザー音
車間距離警報	ブレーキ制御なし	「 」と「 」が交互に点滅	ピピピ…
1次ブレーキ	弱い	「 」と「 」が交互に点滅	ピピピ…
2次ブレーキ	強い	「 」と「 」が交互に早く点滅	ピー

S00342

⚠ 注 意

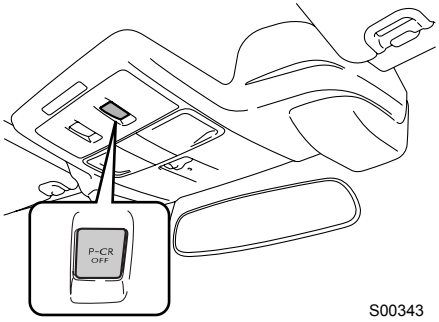
EyeSight警告灯（CAMERA）が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキは作動しません。

アドバイス

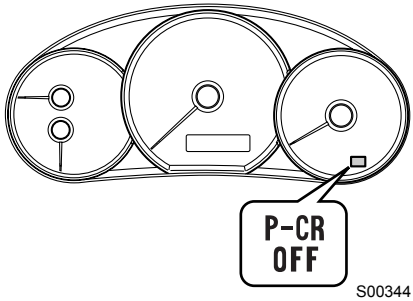
自車速が2 km/h以下または140 km/h以上のときはプリクラッシュブレーキは作動しません。

プリクラッシュブレーキをOFFにするとき

P-CR OFFスイッチを約2秒以上長押しすることによって、プリクラッシュブレーキをOFFにすることができます。OFFにすると、メーター内のP-CR OFF表示灯が点灯します。ONに戻すときは再度P-CR OFFスイッチを約2秒以上長押ししてください。ONにすると、P-CR OFF表示灯が消灯します。



S00343



S00344

アドバイス

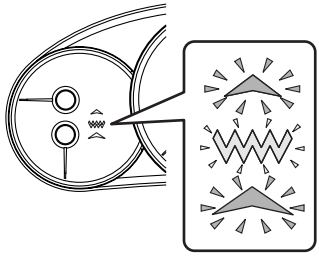
- プリクラッシュブレーキをOFFにすると、AT誤発進抑制制御もOFFになります。
- プリクラッシュブレーキをOFFにしても、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動するとプリクラッシュブレーキはONになります。

AT誤発進抑制制御

前方に障害物を検知している場合、停車または徐行状態から、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し発進をゆるやかにします。
AT 誤発進抑制制御を過信しないでください。AT 誤発進抑制制御はペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を充分ご確認のうえ、操作をするなど安全運転に努めてください。

S00345

このシステムが作動すると、メーターの車間距離警告灯が点滅（「 ⌒ 」と「 ⩙ 」が交互に点滅）し、ブザー音が“ピピピ…”と鳴ります。
この機能はセレクトレバーがDまたはマニュアルモードで作動します。



S00325

⚠ 警 告

- AT誤発進抑制制御は停止状態を保つものではありません。
- AT 誤発進抑制制御はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
- 故意に障害物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を AT 誤発進抑制制御のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を障害物と認識し、AT 誤発進抑制制御が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるかまたはAT誤発進抑制制御をOFFにしてください。
- 次の条件の違いにより作動しないことがあります。
  - 障害物との距離、速度差、横方向のずれ具合（オフセット量）
  - ステレオカメラの認識状態
    特に次の場合は作動しない可能性が高くなります。
    ・悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
    ・砂や煙が舞い、視界が充分でないとき
    ・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき

・障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレールなど）
・障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
・障害物や前方車両（トレーラーなど）の最後面が小さいときや、接近しすぎたとき（最後面が認識できず作動しないこともあります）
・車、二輪車、自転車、歩行者、障害物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
・自車が進路変更を行い、障害物のすぐ後ろに接近したとき
・前方から強い光（逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき
・フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜が付着しているとき
・ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
・雨滴やウインドゥウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
・ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき
・フェンス、縦縞模様の壁、模様が全くない壁があるとき

－ 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）

⚠ 注 意

- 次のような場合は、必ずAT誤発進抑制制御をOFFにしてください。AT誤発進抑制制御が予期しない作動をする可能性があります。
  － けん引されるとき
  － キャリアカーに積載するとき
  － シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
  － リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
  － 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
  － サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 次のような場合は、AT 誤発進抑制制御が作動することがありますので安全運転に努めてください。
  － 前車に接近して走行するとき
  － ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
  － 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
  － 水蒸気や煙のかたまりを通過するとき
  － カーブや交差点に障害物があるとき

アドバイス

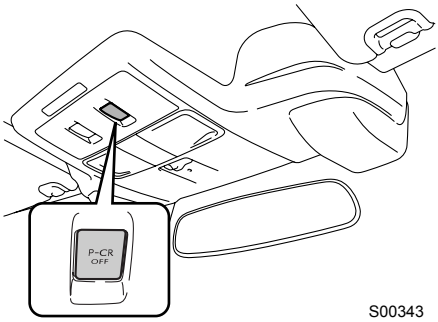
P-CR OFF表示灯が点灯または消灯直後は、AT誤発進抑制制御は作動しません。
P-CR OFF表示灯が点灯する主な条件は、次のような場合です。

- P-CR OFFスイッチを約2秒以上長押ししたとき
- VDC OFFスイッチを押してVDCを作動停止状態にしたとき
- エンジン始動後の約7秒間
- EyeSightが故障したとき※
- EyeSightが一時停止したとき※

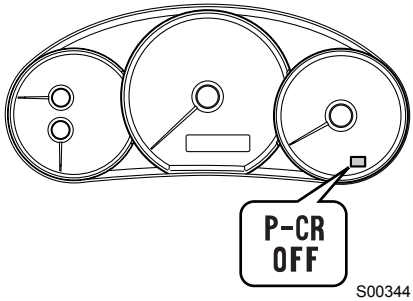
※43ページ参照

AT誤発進抑制制御をOFFにするとき

P-CR OFFスイッチを約2秒以上長押しすることによって、AT誤発進抑制制御をOFFにすることができます。OFFにすると、メーター内のP-CR OFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度P-CR OFFスイッチを約2秒以上長押ししてください。ONにすると、P-CR OFF表示灯が消灯します。



S00343



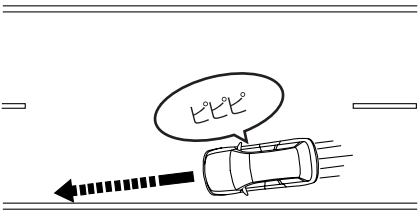
S00344

アドバイス

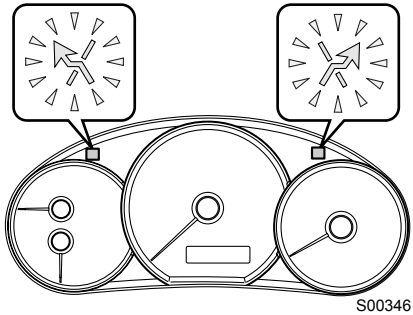
- AT誤発進抑制制御をOFFにするとプリクラッシュブレーキもOFFになります。
- AT誤発進抑制制御をOFFにしても、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動するとAT誤発進抑制制御はONになります。

車線逸脱警報

車速が約40 km/h以上のときに車線を逸脱しそうになると注意を促します。
車線逸脱警報が作動するとブザー音が“ピピピ”と鳴り、メーター内の車線逸脱警告灯（左または右）が点滅します。
また、ふらつき警報が作動した後も、ふらつきが収まらない場合は、通常より早いタイミングで作動します。



S00362


S00346

⚠ 警 告

車線逸脱警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、逸脱を自動的に回避するものでもありません。車線の維持を車線逸脱警報のみに頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

次の場合、車線逸脱警報は作動しません。

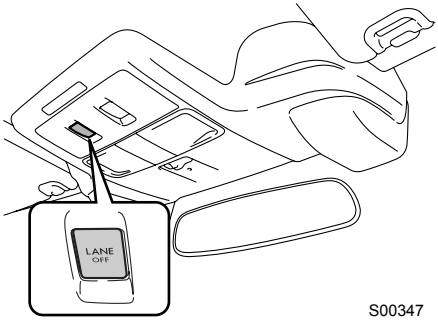
- 車線逸脱警報をOFFにしているとき
- 自車の速度が約40 km/h未満のとき
- 一度車線逸脱警報を行った後の約5秒間
- ハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- ブレーキを踏んでいるとき
- アクセルを踏んで加速しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 方向指示器作動中とレバーを戻した後の約5秒間
- 車線逸脱警報作動後、車線の内側に戻っていないとき
- 車線の幅が狭いとき
- 車線が認識しづらいとき
- 先行車が障害物を避けるため回避行動をとり、それに続いて自車もハンドル操作を行ったとき

アドバイス

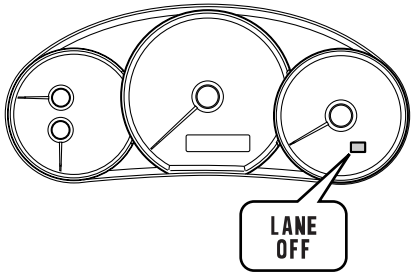
次の場合、車線を誤って認識し、車線逸脱警報が作動することがあります。
- 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡など
- 雪とアスファルトの境目や道路の補修跡など
- 二重車線など

車線逸脱警報をOFFにするとき

LANE OFFスイッチを約2秒以上長押しすることによって、車線逸脱警報をOFFにすることができます。OFFにすると、メーター内のLANE OFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度LANE OFFスイッチを約2秒以上長押ししてください。ONにすると、LANE OFF表示灯が消灯します。



S00347



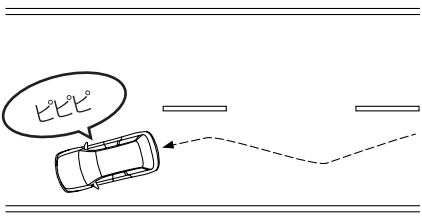
S00348

アドバイス

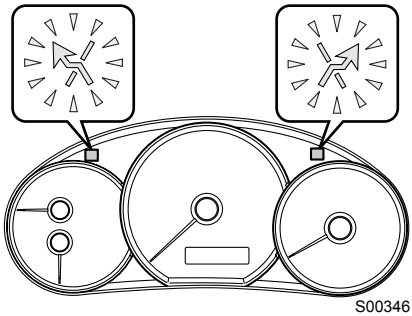
- 車線逸脱警報をOFFにすると、ふらつき警報もOFFになります。
- エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

ふらつき警報

車線内での車両の蛇行パターンからふらつきを検知し注意を促します。ふらつき警報が作動するとブザー音が“ピピピ”と鳴り、車線逸脱警報が左右同時に点滅します。
車速が約50km/h以上で作動します。



S00363


S00346

⚠ 警 告

ふらつき警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、ふらつきを自動的に修正するものでもありません。自車がふらつかないようにすることをふらつき警報のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

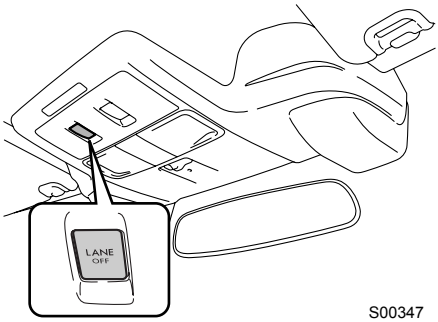
次の状況の時は、作動しない場合があります。
- カーブが連続する道を走行しているとき
- 車速が大きく変動するとき
- 車線変更をした直後のとき
- 車線が認識しづらいとき

アドバイス

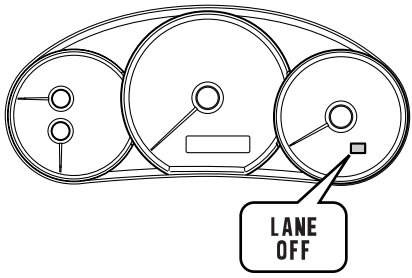
- ふらつきは過去数分間の走行データを元に認識しています。ふらつきはじめてもすぐには認識できません。また、ふらつきが収まったあともしばらくふらつき警報の作動が続くことがあります。
- ふらつき警報はつかれた時やよそ見など運転への集中度が落ちた時にも警報を行うことがあります。必要に応じてこまめに休憩をとることをお奨めします。

ふらつき警報をOFFにするとき

LANE OFFスイッチを約2秒以上長押しすることによって、ふらつき警報をOFFにすることができます。OFFにすると、メーター内のLANE OFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度LANE OFFスイッチを約2秒以上長押ししてください。ONにすると、LANE OFF表示灯が消灯します。



S00347



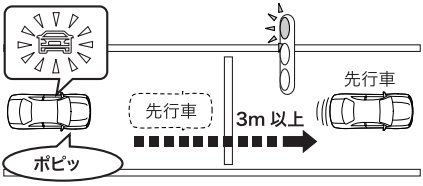
S00348

アドバイス

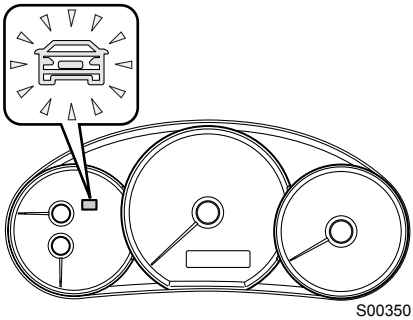
ふらつき警報をOFFにすると、車線逸脱警報もOFFになります。エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

先行車発進お知らせ

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、ブザー音と表示でお知らせします。先行車に続いて停車（車間距離が約10m以内）すると先行車を検知し続け、先行車が発進して約3m以上 進んでも自車が発進しないときに作動します。
この機能はセレクトレバーがDまたはNで作動します。
この機能が作動すると“ポピッ”というブザー音が鳴り、先行車発進お知らせ表示が点滅します。



S00349


S00350

アドバイス

次のような状況では、先行車が発進していなくても先行車発進お知らせが働いてしまう場合や、先行車が発進していても先行車発進お知らせが働かない場合があります。

- 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- 天候や道路形状などにより、先行車を検知できないとき
- 先行車を見失ったとき
- Dレンジでドライバーがブレーキを踏んでいないときは、作動しません。

ブザー音一覧

ブザー音	状態	参照先
“ピッ”	全車速追従機能付クルーズコントロール作動時 ・先行車を認識した場合 ・先行車がいなくなった場合	☆18ページ参照
“ピーッ”	全車速追従機能付・定速クルーズコントロールが解除された場合	☆25、50ページ参照
“ピピピ…”	ブレーキ踏み増し要求警報作動時 (全車速追従機能付クルーズコントロール)	☆27ページ参照
“ピピピ…”	プリクラッシュブレーキ 1次ブレーキ作動時	☆32ページ参照
“ピーー…”	プリクラッシュブレーキ 2次ブレーキ作動時	☆32ページ参照
“ピピピ…”	AT誤発進抑制制御作動時	☆34ページ参照
“ピピピ…”	車間距離警報作動時	☆32ページ参照
“ピピピ”	車線逸脱警報作動時	☆37ページ参照
“ピピピ”	ふらつき警報作動時	☆39ページ参照
“ポピッ”	先行車発進お知らせ作動時	☆41ページ参照
“ピッ”	警告表示点灯時	☆43ページ参照

アドバイス

車間距離警報と車線逸脱警報が同時に発生したときには、車間距離警報を優先します。

警告画面表示一覧

EyeSightに異常がある場合、メーター内の表示灯と液晶表示部の表示によってお知らせします。表示内容を確認し、適切な処置を行ってください。クルーズスイッチON時のみ表示されます。

液晶表示	点灯する表示灯	ブザー音	原因	処置
E0	P-CR OFF 表示灯、LANE OFF表示灯	ピッ	ステレオカメラ以外の故障	スバル販売店で点検を受けてください。
E1	P-CR OFF 表示灯、LANE OFF表示灯	ピッ	• 豪雨、豪雪、濃霧などの悪天候 • フロントガラスの汚れや曇り • 前方からの強い光（太陽光、ヘッドランプの光など）	ステレオカメラ本体の取り扱いの注意事項を守ってください。 ☆4ページ参照 それでも表示が消えない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
E2	P-CR OFF 表示灯、LANE OFF表示灯	ピッ	• ステレオカメラが使用可能温度の範囲外	
E3	P-CR OFF 表示灯、LANE OFF表示灯	ピッ	• ステレオカメラの故障 • EyeSight起動中	表示が継続される場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
E4	P-CR OFF 表示灯、LANE OFF表示灯	ピッ	ステレオカメラの軸がずれている	

定速クルーズコントロール

定速クルーズコントロールについて

アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができます。

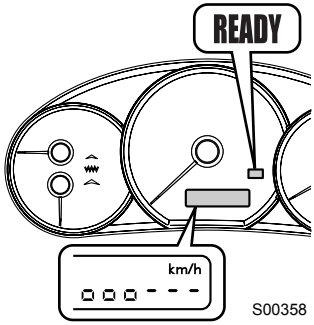
⚠ 警 告

- 定速クルーズコントロール中は車間距離を保つ追従走行を行いません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので定速クルーズコントロールを使わないでください。
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
    道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - 急な下り坂
    急な下り坂ではエンジンブレーキが充分効かないため、セット車速を超えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。

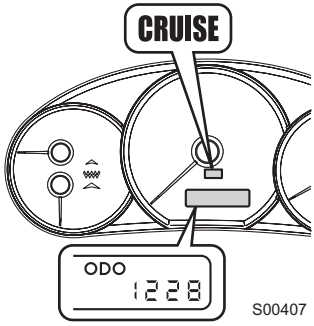
⚠ 注 意

クルーズコントロールを使用するときは、全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールのどちらのクルーズコントロールが選択されているかを液晶表示部で必ず確認してください。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール



- 定速クルーズコントロール



アドバイス

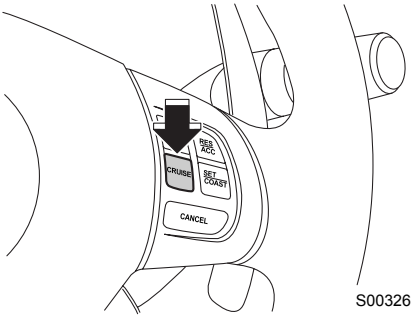
- CRUISE（クルーズ）スイッチを ON にしたときは、初めは全車速追従機能付クルーズコントロールになります。
- クルーズコントロールの切り替えは、DIST（車間設定）スイッチを約2秒以上長押しする事により行います。
  （全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロールをセットしていないときのみ有効）

定速クルーズコントロールの使用方法

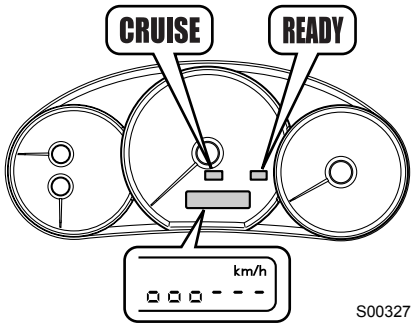
以下の条件のときにセットできます。
- セレクトレバーがDのとき
- ブレーキペダルを離しているとき
- 自車速が40 km/h～100 km/hのとき

■定速クルーズコントロールをスタンバイさせる

①CRUISE（クルーズ）スイッチを押します。このときメーター内のクルーズ表示灯が点灯し、液晶表示部に“車間設定”が表示されます。（全車速追従機能付クルーズコントロール）

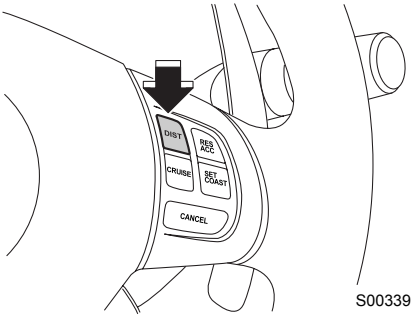


S00326

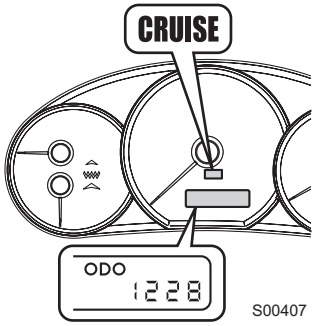


S00327

②DIST（車間設定）スイッチを約2秒以上押して定速クルーズコントロールに切り替えます。このときブザー音が“ピッ”と鳴り、液晶表示部がODO/TRIP表示になります。（定速クルーズコントロール）



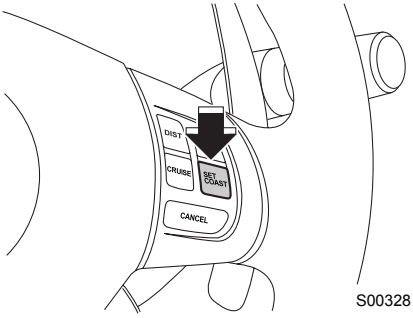
S00339



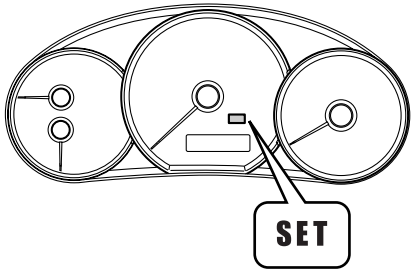
S00407

■定速クルーズコントロールをセットする

車速が40 km/h～100 km/hのときに、SET/COAST（セット/コースト）スイッチを押します。スイッチを押したときの車速がセット車速となり、定速走行します。



S00328



S00329

⚠ 警 告

定速クルーズコントロールでは、ブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。

⚠ 注 意

- 定速クルーズコントロールでは、先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行いません。必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をしてください。
- 急な下り坂などでは、セットした車速を超えてしまう場合があります。必要に応じてブレーキ操作を行ってください。

アドバイス

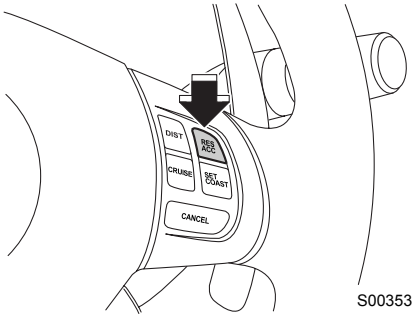
- 全車速追従機能付クルーズコントロールに戻したいときは、DIST（車間設定）ボタンを約2秒間長押しして、定速クルーズコントロールを解除します。
- 定速クルーズコントロールで走行中、アクセルペダルを踏むと加速しますが、アクセルペダルを離すとセット車速まで戻り、定速走行します。

■セット車速を変える

●セット車速を上げたいとき

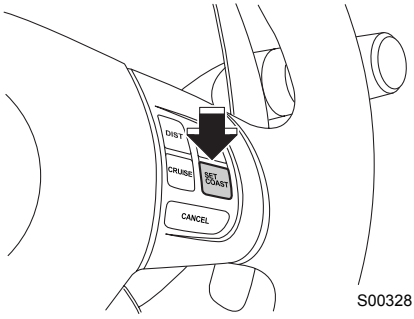
次の3つの方法があります。

- RES/ACC（リジューム / アクセラレート）スイッチを短く押すと、セット車速が 1 km/hきざみで上がります。
- RES/ACC（リジューム / アクセラレート）スイッチを押し続け、希望速度になったら離します。



S00353

- アクセルペダルを踏み、速度を上げます。希望の速度になったらSET/COAST（セット/コースト）スイッチを押します。

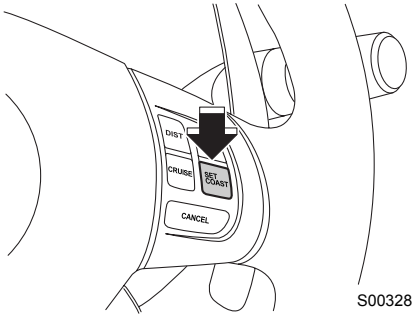


S00328

●セット車速を下げたいとき

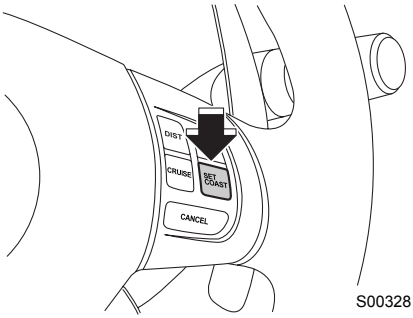
次の3つの方法があります。

- SET/COAST（セット/コースト）スイッチを短く押すと、セット車速が 1 km/hきざみで下がります。
- SET/COAST（セット/コースト）スイッチを押し続け、希望速度になったら離します。



S00328

- ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。（定速クルーズコントロールが解除されます。）希望の速度になったら SET/COAST（セット/コースト）スイッチを押します。



S00328

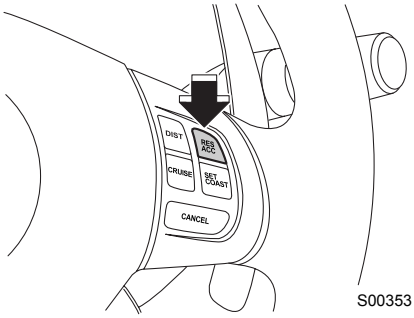
■一時的に加速する

アクセルペダルを踏むと、加速します。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

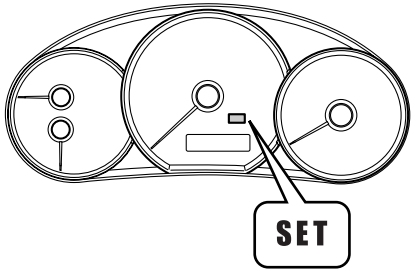
■減速する

ブレーキペダルを踏むと、減速します。（定速クルーズコントロールが解除されます。）

解除前のセット車速で再びセットしたいときは、RES/ACC（リジューム/アクセラレート）スイッチを押します。



S00353

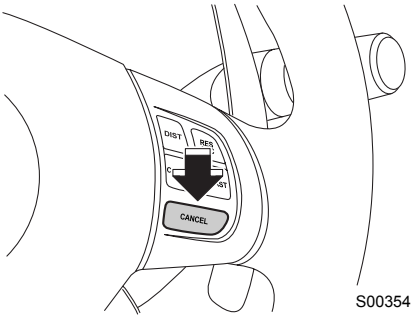


S00329

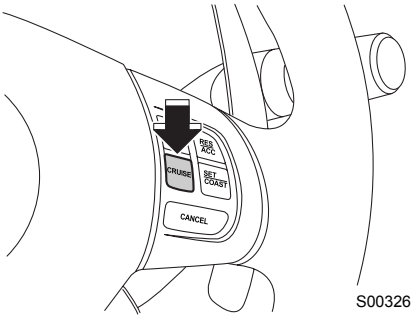
■定速クルーズコントロールを解除する

次のいずれかの操作で定速クルーズコントロールが解除されます。

- CANCEL（キャンセル）スイッチを押す。
- CRUISE（クルーズ）スイッチを押す。
- ブレーキペダルを踏む。



S00354



S00326

●自動解除

次の場合は“ピー”というブザー音とともに制御が自動で解除されます。以下の条件が解消された後に再度セット操作をしてください。

- セレクトレバーを[D]レンジ以外にしたとき。
  [D]レンジに戻すことにより、復帰します。
- ATをマニュアルモードにしたとき。
  [D]レンジに戻すことにより復帰します。
- [D]レンジで走行中パドルシフトを操作したとき。
  シフト表示が[D]に戻ると再度使用することができます。
- VDCをOFFにしたとき。
  VDCをONに戻すと復帰します。
- 自車速が約30 km/h以下になったとき。（急な登り坂など）
- 自車速が約140 km/h以上になったとき。（急な下り坂など）
- ABS、VDCまたはTCSが作動したとき。
- タイヤが空転したとき。
- EyeSightに異常があるとき。（43ページの「警告画面表示一覧」参照）

⚠ 警 告

滑りやすい路面では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速クルーズコントロールを使用しないでください。

アドバイス

- EyeSight が故障した場合は EyeSight 警告灯、P-CR OFF 表示灯および LANE OFF表示灯が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度エンジンを止めてから再びエンジンを始動してください。この操作をしても表示が点灯し続けるときは、定速クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。
- 定速クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの状態が解消されてから、再びセット操作を行ってください。状態が解消されてもセットできないときは、EyeSight の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

故障と思う前に

	クルーズコントロールがセットできない
	クルーズスイッチを押し忘れていませんか？ 押し忘れているときはCRUISEランプが消灯しています。
	ステレオカメラが一時停止状態になっていませんか？ ステレオカメラが一時停止状態の時は、液晶表示部にE0～E4と表示されます。 一時停止状態の要因を解消した後、再度セット操作を行ってください。
	[READY]表示が出ていますか？ (全車速追従機能付クルーズコントロール時) [READY]表示が出ていないとセットできません。[READY]表示が出ているときセット操作してください。

	[READY]表示が出ない
	定速クルーズコントロールではありませんか？ 定速クルーズコントロールでは、メーター内の追従クルーズREADY表示灯が消灯します。
	セットできる条件ですか？ 下記のいずれかのときは、READY表示は出ません。 • ブレーキペダルを踏んでいるとき • 自車速が0 km/h～100km/h以外のとき • セレクトレバーがD以外のとき (マニュアルモード選択時はセットできません。) • VDCがOFFになっているとき

	先行車を認識しない、認識するのが遅い、すぐに認識しなくなる等
	停止車両、極端に遅い車両ではありませんか？ 停止車両や極端に遅い車両は認識が遅れる場合があります。
	フロントガラスが汚れたり、曇ったりしていませんか？ フロントガラスに汚れや曇りがある場合、先行車を認識しない場合があります。 フロントガラスの汚れや曇りを取り除いてから再びご使用ください。
	先行車が遠い距離にいませんか？ ステレオカメラの最大の認識距離は約90 mです。それ以上の距離が開いていると認識しません。
	カーブ路ではありませんか？ 認識範囲は左右に限界があります。
	登り降りが連続した道路（陸橋など）、またはバンク路面ではありませんか？ 認識範囲は上下に限界があります。
	先行車が入れ替わっていませんか？ 入れ替わった場合は、認識が遅れる場合があります。
	先行車が水や雪などを巻き上げて走行していませんか？ 水や雪を巻き上げている場合、先行車を検知できない場合があります。

	先行車がいないのに制御を行う
	隣車線に車両はありませんか？ 道路状況によっては隣車線の車両を先行車として認識する場合があります。
	カーブ付近を走行中ではありませんか？ カーブ走行中は、ガードレール、路側の構造物に対してブレーキ制御を行う場合があります。

	ステレオカメラが一時停止から復帰しない
	VDCがOFFになっていませんか？ VDCがOFFのときはステレオカメラが一時停止状態になります。
	雨天の中を、古いワイパーのままや、フロントガラスに油膜が付着した状態で走行していませんか？ ワイパーを新品に替え、フロントガラスの油膜を取り除いてください。
	太陽が真正面（西日など）にあったり、夜間対向車の強いヘッドライトをあびていませんか？ この場合、ステレオカメラが一時停止状態になります。

	ブレーキ踏み増し警報のタイミングが早いとき、または遅いときがある
	ブレーキ踏み増し警報は、先行車との相対距離や相対速度などから、システムが踏み増し要と判断したときに鳴りますので、先行車のブレーキのかけ方によってはタイミングが変わる場合があります。

	先行車離脱の後の加速が遅いとき、または速いときがある
	先行車の離脱タイミングによっては、離脱判断が遅くなる場合があり、加速開始が遅く感じる、ブレーキ制御が長く感じる可能性があります。
	SI-DRIVEはどのモードを選択していますか？ 選択したモードにより、加速が異なります。

	クルーズコントロールが勝手に解除された
	下記のいずれかの操作をしている。 • ブレーキを踏んでいませんか？ • キャンセルスイッチを押していませんか？ • ATをマニュアルモードにしていませんか？ • VDC OFFスイッチを押していませんか？

	先行車がいないのに、先行車発進お知らせが作動する
	車両前方の周辺物や交通環境、天候によって先行車以外の物に対して先行車発進お知らせが作動する場合があります。

	自動ブレーキが作動すると音がする
	自動ブレーキの作動音で異常ではありません。

	渋滞走行時、ブレーキ制御を行う頻度が高い
	人の運転と異なり先行車の動きのみにあわせての制御ですので、頻繁な加減速となる場合があります。なお、このような状況で車間距離が保ちにくい場合は使用を控えてください。

	下り坂でクルーズコントロールを使用中に、弱いショックを感じる
	シフトダウン（低速ギヤに変速する）制御を行っているので弱いショックを感じることがあります。

	クルーズコントロール中にRES/ACCを押したのにセット車速が減少した または、SET/COASTを押したのにセット車速が増加した
	スイッチを長押ししていませんか？ スイッチを長押しすると、押している間加速（または減速）し、スイッチを離したときの車速がセット車速になります。 まれに道路状況によってRES/ACCを押しても減速することがあり、減速後の車速がセット車速になることがあります。

MEMO

さくいん

あ

EyeSight警告灯 ····· 8
EyeSightについて ····· 2

え

AT誤発進抑制制御 ····· 34
AT誤発進抑制制御を
OFFにするとき ····· 36
SI-DRIVEセレクター ····· 10
SI-DRIVEセレクトスイッチ ····· 10

き

CANCELスイッチ ····· 9

く

クルーズコントロール ····· 12
クルーズコントロールSET表示灯 ····· 8
CRUISEスイッチ ····· 9
クルーズ表示灯 ····· 7

け

警告画面表示一覧 ····· 43

こ

故障と思う前に ····· 52

し

車間距離警告灯 ····· 8
車間距離警報 ····· 32
車間設定スイッチ ····· 10
車間設定を変える ····· 23
車線逸脱警告灯 ····· 8
車線逸脱警報 ····· 37
車線逸脱警報をOFFにするとき ····· 38

す

ステアリングスイッチ ····· 9
ステレオカメラについて ····· 4

せ

SET/COASTスイッチ ····· 9
セット車速を変える ····· 21、48
先行車発進お知らせ ····· 41
全車速追従機能付クルーズコントロール
····· 12
解除 ····· 24
使用方法 ····· 17

つ

追従クルーズ動作表示灯 ····· 8

て

DIST（車間設定）スイッチ ····· 10
定速クルーズコントロール ····· 44
定速クルーズコントロール
解除 ····· 50
使用方法 ····· 46
定速クルーズコントロールを
セットするとき ····· 46

ひ

P-CR OFF表示灯 ····· 8
表示切り替えスイッチ ····· 10

ふ

ブザー音一覧 ····· 42
ふらつき警報 ····· 39
ふらつき警報をOFFにするとき ····· 40
プリクラッシュブレーキ ····· 29
プリクラッシュブレーキの作動 ····· 32
プリクラッシュブレーキを
OFFにするとき ····· 33
ブレーキ踏み増し要求警報 ····· 27

め

METER DISP（表示切り替え）スイッチ
····· 10
メーター表示構成 ····· 7
メモリーされている車速に
再びセットする ····· 27

り

RES/ACCスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・9

れ

LANE OFF表示灯・・・・・・・・・・・・・・・・・8

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
　型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール　0120−052215

受付時間　9:00〜17:00(平日)、土日祝は9:00〜12:00、13:00〜17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
(1) ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
(2) お問合せ／ご相談
※平日の12:00〜13:00および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社
スバルカスタマーセンターお客様相談部
〒160-8316　新宿区西新宿1-7-2（スバルビル）

禁複製・転載

編集・発行　富士重工業株式会社

スバルカスタマーセンター
カスタマーセンター企画部

EXIGA YA4-015001〜017999,
YA5-023001〜026999, YA9-008001〜009999